

まとめ

宝塚古墳は上塩治築山古墳とならんで、古墳時代終わりごろ、この出雲平野で石室や石棺造りに高度な技術が使われたことを示してくれる古墳です。

石室の造り方や冢形石棺の形などで推定すると、宝塚古墳は6世紀の終わりから7世紀の初めごろに造られたようです。ちょうど聖徳太子(厩戸皇子)が活躍していた時代です。当時の出雲の歴史を考えるうえでたいへん貴重な古墳といえるでしょう。

周辺の遺跡

◎深田谷横穴墓群(市指定史跡)：出雲市芦渡町

丘陵の斜面をくり抜いた横穴墓が2基確認されています。そのうち1基の壁面には複数の人物像が刻まれており、中には冠のようなものを身に付けた人の絵もあります。



深田谷横穴墓壁面

◎多聞院貝塚(市指定史跡)：出雲市知井宮町

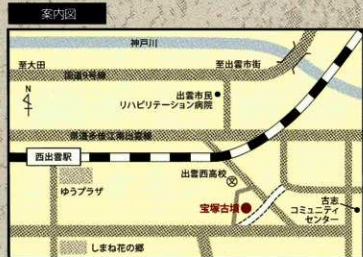
真言宗寺院の多聞院の境内にあり、貝塚から弥生時代中期～古墳時代前期にかけての多くの土器、小刀などがみつかっています。

◎大槻古墳：出雲市古志町

古くに墳丘を削られ、石室の天井石と側面の上部を失ってしまっています。石室は凝灰岩の切石で作られています。現在は底部のみ確認することができます。



大槻古墳



お問い合わせ先

出雲市文化財課
(出雲弥生の森博物館内)

TEL 0853-21-6893

国指定史跡

宝塚古墳

たからづかこふん

所在地：出雲市下古志町
1931年(昭和6)11月26日指定



宝塚古墳石室と冢形石棺

Ancient Tomb
Takarazuka

宝塚古墳

다카라즈카 고분

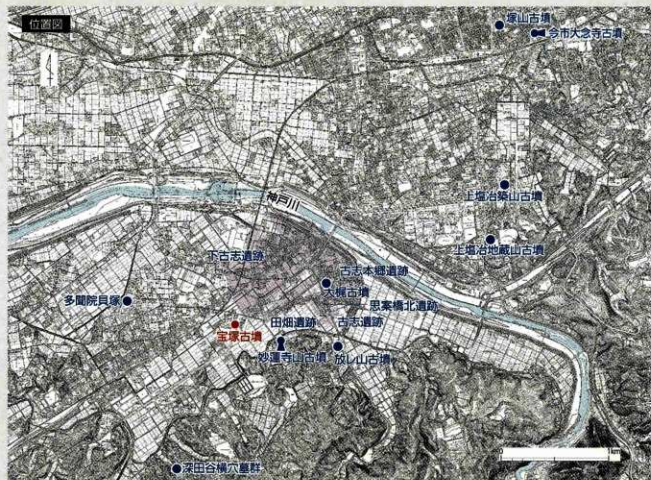
島根県出雲市

位置と環境

宝塚古墳は出雲平野南部、私立出雲西高校グラウンドの東側にあります。神戸川左岸の標高およそ8mの水田に位置し、出雲市内ではもっとも低地に立地する古墳です。

この周辺は、かつて「神門水海」と呼ばれた入り江に面した沖積平野でした。

宝塚古墳が造られた古墳時代後期（6～7世紀）には、妙蓮寺山古墳や放し山古墳などが築かれています。これらの古墳は、神戸川右岸の今市大念寺古墳や上堀治薬山古墳などに次ぐ規模をもっています。



墳 丘

宝塚古墳は石室の天井石が露出し墳丘はかなり削られているうえに、石室の床がまわりの水田よりも低くなっているなど、造られた当時の姿からは大きく変わっています。周囲の墓地を含めると20～30mほどの大きさが推定されますが、墳丘の形と正確な規模は今後の調査によらないとわかりません。



宝塚古墳墳丘

横穴式石室

宝塚古墳は、江戸時代の地誌「雲陽志」（1717年）に「寶塚」「石室の内石塔あり」と書かれ、このころすでに石室は開いていたようです。

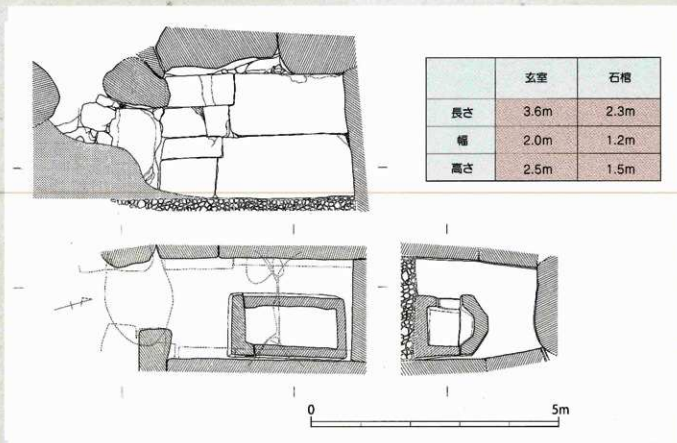
南側に開口する片袖式の横穴式石室で、全長は現状で7m以上あります。玄室の奥壁が一枚石で、壁側は凝灰岩の切石を積み上げて造られています。玄室の天井石は2枚用いられていますが、羨道の天井石は崩れ落ちています。

玄室の右側に、凝灰岩で造られた家形石棺が置かれています。横に大きな口が開いているのが特徴です。蓋は一つの石をくり抜いてありますが、身は二つの石材を組み合せています。

なお、横穴式石室からの出土品は知られていません。



石室内部の様子



石室実測図

	玄室	石棺
長さ	3.6m	2.3m
幅	2.0m	1.2m
高さ	2.5m	1.5m